

建築物名称	F-BASE
受付日	令和元年12月20日
建物所在地	静岡県富士市宮島字鱸島973-1他25筆
構造規模等	鉄骨造／地上3階／延床面積3,080.72平方メートル／新築
建物用途区分	事務所
建築主	ポリプラスチックス株式会社富士工場 工場長 真田 祥司
設計者	株式会社石井組一級建築士事務所 埜村 光伸
工事完了予定日	令和2年10月31日

CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	F-BASE	階数	地上3F
建設地	静岡県富士市宮島字鱈島973-1他2	構造	S造
用途地域	工業地域、防火地域指定なし	平均居住人員	200 人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,650 時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2020/10 予定	評価の実施日	2019/12/1
敷地面積	112,295 m ²	作成者	中村博臣
建築面積	1,119 m ²	確認日	2019/12/17
延床面積	3,081 m ²	確認者	荻村光伸



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 2.1

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

30% ★★★★★ 60% ★★★★★ 80% ★★★★★ 100% ★★★★★ 100%超: ★★★★★

①参照値 100%
②建築物の取組み 72%
③上記+②以外の 72%
④上記+ 72%

(kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Q のスコア = 3.1

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.2

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.5

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.7

LR 環境負荷低減性 LR のスコア = 3.9

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.3

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 4.0

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.4

3 設計上の配慮事項		
総合	これはCASBEE静岡2016年版による評価結果です。耐用年数高い材料を使用し、ライフサイクルコストを低減している。また植栽を地上に積極的にしている。	
その他	特になし。	
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
壁、床、天井に吸音材を使用している。F☆☆☆☆を使用し、事務室に大きな開口が設置されている。	可変性のあるパーテーションを採用。設計段階において内装仕上げ材の選定が行われている。事務室天井高2.7m。リフレッシュスペースが8.7%と自動販売機設置。耐用年数が高い内装仕上げ材と給排水配管材を使用。耐震クラス	工場立地法に適合している。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
外皮性能が高い。BEI m : 0.61。	節水コマを使用している。そして、躯体と仕上げ材が容易に分別可能となっている。再利用できるユニット部材を用いている。また、断熱材はグラスウールを使用している。	ライフサイクルCO ₂ 排出率が、一般的な建物(参照値)に対して72%。交通負荷抑制に取り組んでいる。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修・解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される



欄に数値またはコメントを記入

1. 建物概要						
建物名称	F-BASE	BEE	2.1	BEEランク	A	★★★★

2. 重点項目への取り組み度						
重点項目	得点 [※] /満点	取り組み度	評価			
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	3.9 /5		ふつつ			
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	3.9 /5		ふつつ			
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	3.4 /5		ふつつ			
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	2.9 /5		がんばろう			
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例	よい 4 点以上		ふつつ 3 点以上	
					がんばろう 3 点未満	

3. 重点項目についての環境配慮概要		内訳対応項目					
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。							
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)		得点		3.9			
<p>■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) ①耐用年数が高い内装仕上げ材を使用している。 ②ガルバリウム鋼板を使用している。 ③耐用年数が高い給排水配管材を使用している。</p> <p>■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) ④緑化づくりに取り組んでいる。</p> <p>■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) ⑤外皮性能が高い。 ⑥BEI 0.61。</p> <p>■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) ⑦節水コマを使用している。 ⑧材料使用量の削減に取り組んでいる。 ⑨躯体材料におけるリサイクル材を使用している。 ⑩躯体材料以外におけるリサイクル材を使用している。 ⑪躯体と仕上げ材が容易に分別可能となっている。再利用できるユニット部材を用いている。 ⑫グラスウールを使用している。</p> <p>■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) ⑬ライフサイクルCO2排出率が、一般的な建物(参照値)に対して72%。</p>	Q-1	2	2.1	2.1.2	①	外皮性能	
	Q-1	3	3.1	3.1.3	②	昼光利用設備	
				3.2	3.2.1	③	昼光制御
	Q-2	2	2.2	2.2.1	④	躯体材料の耐用年数	
				2.2.2	④	外壁仕上げ材の補修必要間隔	
			2.2.3	④	主要内装仕上げ材の更新必要間隔		
			2.2.4	④	空調換気ダクトの更新必要間隔		
			2.2.5	④	空調・給排水配管の更新必要間隔		
			2.2.6	④	主要設備機器の更新必要間隔		
	Q-3	1			⑤	生物環境の保全と創出	
		3	3.2		⑥	敷地内温熱環境の向上	
	LR-1	1			⑦	建物外皮の熱負荷抑制	
		2			⑧	自然エネルギー利用	
		3			⑨	設備システムの高効率化	
		4	4.1		⑩	モニタリング	
			4.2		⑩	運用管理体制	
	LR-2	1	1.1		⑪	節水	
			1.2	1.2.1	⑪	雨水利用システム導入の有無	
				1.2.2	⑪	雑排水等利用システム導入の有無	
		2	2.1	2.1.1	⑫	材料使用量の削減	
				2.1.2	⑫	既存建築躯体等の継続使用	
				2.1.3	⑫	躯体材料におけるリサイクル材の使用	
				2.1.4	⑫	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	
				2.1.5	⑫	持続可能な森林から産出された木材	
				2.1.6	⑫	部材の再利用可能性向上への取組み	
		3	3.1		⑬	有害物質を含まない材料の使用	
			3.2	3.2.1	⑬	消火剤	
				3.2.2	⑬	断熱材	
				3.2.3	⑬	冷媒	
	LR-3	1			⑭	地球温暖化への配慮	
		2	2.2		⑮	温熱環境悪化の改善	
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)		得点		3.9			
<p>■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) ⑭建築基準法に定められた50%増の耐震性を有する。 ⑮耐震クラスA。</p>	Q-2	2	2.1	2.1.1	⑯	耐震性	
					2.1.2	⑯	免震・制振性能
			2.4	2.4.1	⑰	空調・換気設備	
				2.4.2	⑰	給排水・衛生設備	
				2.4.3	⑰	電気設備	
				2.4.4	⑰	機械・配管支持方法	
				2.4.5	⑰	通信・情報設備	
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)		得点		3.4			
<p>■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) ⑯バリアフリー新法の建築物移動等円滑化基準(最低限のレベル)を満たしている。 ⑰階高 3.9m以上。 ⑱壁長さ比率:0.149。</p> <p>■室外環境(敷地内)対策 (㉑地域性・アメニティへの配慮) 特になし。</p>	Q-2	1	1.1	1.1.3	⑱⑲	ユニバーサルデザイン計画	
		3	3.1	3.1.1	⑳	階高のゆとり	
					3.1.2	㉑	空間の形状・自由さ
	Q-3	3	3.1		㉑	地域性への配慮・快適性の向上	
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)		得点		2.9			
<p>■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/㉒まちなみ・景観への配慮/⑥敷地内温熱環境の向上) 特になし。</p> <p>■敷地外環境対策 (⑮温熱環境悪化の改善) 特になし。</p>	Q-3	1			⑤	生物環境の保全と創出	
		2			㉒	まちなみ景観への配慮	
		3	3.2		⑥	敷地内温熱環境の向上	
	LR-3	2	2.2		⑮	温熱環境悪化の改善	